幼稚園･保育所における英語活動の実践（１）
―私立保育所における活動事例―

○烏田直哉（東海学園大学）　志濃原亜美（秋草学園短期大学）　小野克志（名古屋文化学園保育専門学校）　木本有香（同朋大学）
田中卓也（共栄大学）　中島眞吾（名古屋短期大学）　秀真一郎（吉備国際大学）　横井一之（東海学園大学）

はじめに

本研究の目的は、幼児教育現場における英語活動の実践を明らかにすることである。その事例として、S市認定インターナショナル保育園における実践例〔「幼稚園･保育所における英語活動の実践(2)」〕と併せ、私立保育所における「英語遊び」の活動事例を示す。

平成25年12月、文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が示された。小学校中学年においては「活動型」とし、学級担任を中心に指導、高学年においては、「教科型」とし、専科教員による初歩的な英語運用能力を養うとしている。今後「学習指導要領を改訂し、2018年度から段階的に先行実施」する意向である。これにさきがけ、「英語教育の在り方に関する有識者会議」を設置し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えた英語教育改革について検討を進めている。

一方、多くの幼児教育現場でも英語活動を取り入れている。幼児教育現場における英語活動の方法や内容は「百園百様」であり、多くの調査が行われてきた。中山千章らは、平成21年度のつくば国際短期大学附属幼稚園年長児における英語カリキュラムを提示している[1)]。月別の具体的なカリキュラムが示してあり、最大のねらいとしては「子どもに英語を楽しんでもらえるようにすること」としている。また、松永道子らは「日本幼年教育会加盟および佐世保市内幼稚園・保育園」を対象に、英語教育導入の有無、目的、対象クラス、時間数等を調査している[2)]。回答の得られた91園のうち、67園、ほぼ4分の3において実施されているとしている。また、この調査において、指導者は41%が「ネイティヴの先生（派遣講師）」であり、「英語を母国語としない英語担当の自園の職」はごく少数である点は興味深い。

本研究で取り上げる私立保育所においては、英語を母国語としない前園長が「英語遊び」を年長児に対して実施している。以下、その概要を示す。

１．「英語遊び」のねらい

平成27年1月16日（金）、名古屋市昭和区にある駒方保育園（社会福祉法人昭徳会、名古屋市昭和区）の5歳児クラスにおける「英語遊び」[3)]を見学した。指導者は通訳案内士（英語）として活躍する一方で、園長を退いて後、保護者の要望に応じて、中学校教諭（英語）の素養を活かして「英語遊び」を導入した。現在、週1回、1時間程度、年長クラスを対象に活動している。保護者も、年に2回参観する機会が設けられている。「英語発音の反復練習や文字の練習」よりも「楽しく自然に英語に親しめる」こと、英語嫌いにさせないようにすることに重点をおいている。

２．活動概要

まず、インフルエンザや風邪にかかっていないか、「気をつけようね」（Be careful.）などと、英語と日本語で呼びかける。次に指導者が「英語遊びをするときのお約束を思い出してみよう」と言って、「静かに」(Be quiet.)、「先生をみて」（Look at me.）などをジェスチャーで示し、児童に英語で言わせる。続いて、「晴れ」、「曇り」などの天気の歌を、黒板のイラストを見ながら、子どもと指導者がともにCDに合わせて歌う。その後、子どもが反復する。

次に、日常基本動作のイラストを黒板に貼り、それを歌い込んだCDに合わせて指導者と児童がいっしょに歌って踊る。その後、指導者が動作をしながら、「What am I doing?」と子どもとQ&Aをし、次に子ども同士でQ&Aをするよう指導者が指示する。

それに続くビンゴゲームでは、上記の動作を示す絵の9つ組み合わせた「ビンゴカード」を配付し、指導者の英語の発音をしっかり聞かせる。その動きが自分のカードにあれば○印をつける。9つの絵の組合せは一人ずつ少しずつ変えてあり、ゲームを盛り上げるよう配慮してある。

３．考察

先行研究においても指摘されている通り、外部委託による英語活動が多く行われる中、自園関係者が自ら英語活動を展開する例は少ない。園の特徴や子どもの実態をじゅうぶんに把握している自園関係者だからこそ可能な活動がある。活動前に、「Mr. Masaki!!」と、子どもが職員室にいる指導者を呼びに来ることがきまりとなっている。子どもたちにとって身近な存在が、指導者であり、英語への親近感を高めるにも効果的であるという点に当園の活動が特徴付けられる。

【謝辞】本研究をすすめるにあたり、指導に当たられた正木克彦・駒方保育園（社会福祉法人昭徳会）前園長先生、田中美枝子・現園長先生、および同園職員の方々に御教示を頂きました。ここに御礼申し上げます。

註

1) 中山千章・廣瀬久子「幼児教育としての英語をめぐる環境とその指導のあり方について」『紀要』第38輯、つくば国際短期大学、平成22年、43-58頁参照。

2) 松永道子、小松義隆、ルーク・ロバージュ「コミュニケーション能力を高める幼児英語教育のこれから」『研究紀要』第21号、長崎短期大学、平成21年、47-62頁参照。

3) 正木克彦「英語遊びについて」、平成25年4月13日。